

平成 29 年度

千葉県公立高等学校入学者選抜
学 力 検 査 の 結 果

千葉県教育委員会

目 次

I	概 要	2
1	はじめに	
2	実施日, 教科	
3	調査の対象	
4	学力検査問題の特徴	
5	結果の概要	
II	【前期選抜】教科別の結果	
1	国 語	4
2	社 会	6
3	数 学	8
4	理 科	10
5	英 語	12
III	【前期選抜】受検者の得点分布	14
IV	【後期選抜】教科別の結果	
1	国 語	16
2	社 会	18
3	数 学	20
4	理 科	22
5	英 語	24
V	【後期選抜】受検者の得点分布	26

I 概 要

1 はじめに

平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜では、前期選抜及び後期選抜において学力検査を実施した。その結果をもとに作成した「学力検査の結果」を、本県中学校及び高等学校において教科指導向上のための資料の一つとして活用願いたい。

2 実施日、教科

前期選抜の学力検査は、平成29年2月13日（月）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各50分、各100点満点で実施した。

後期選抜の学力検査は、平成29年3月1日（水）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各40分、各100点満点で実施した。

3 調査の対象

本結果は、平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜の前期選抜及び後期選抜の学力検査で、全日制の課程（特別入学者選抜、地域連携アクティブスクール4校を除く）を受検した者（前期選抜では38,605名、後期選抜では16,416名）の結果についてまとめたものである。

なお、正答率・無答率については、各教科とも全日制の課程の全受検者のうちから抽出した答案（全体の約10%）によって算出した。

4 学力検査問題の特徴

学力検査問題の作成に当たっては、各教科とも中学校学習指導要領に基づき、総合的な力をみることができるよう配慮した。

平成29年度の学力検査問題の特徴は、次の2点である。

- 基礎的・基本的な事項の正確な理解度をみることができるよう、複数の解答について全て正しい場合にのみ正解とする問題や、理由を書かせる問題を設定した。
- 学習した基礎的知識を応用して答えを導く問題や思考力、判断力、表現力を総合的にみることができるような問題を設定した。

上記2点を柱に、「自ら学び、思考し、表現する力」をみる問題を充実させた。

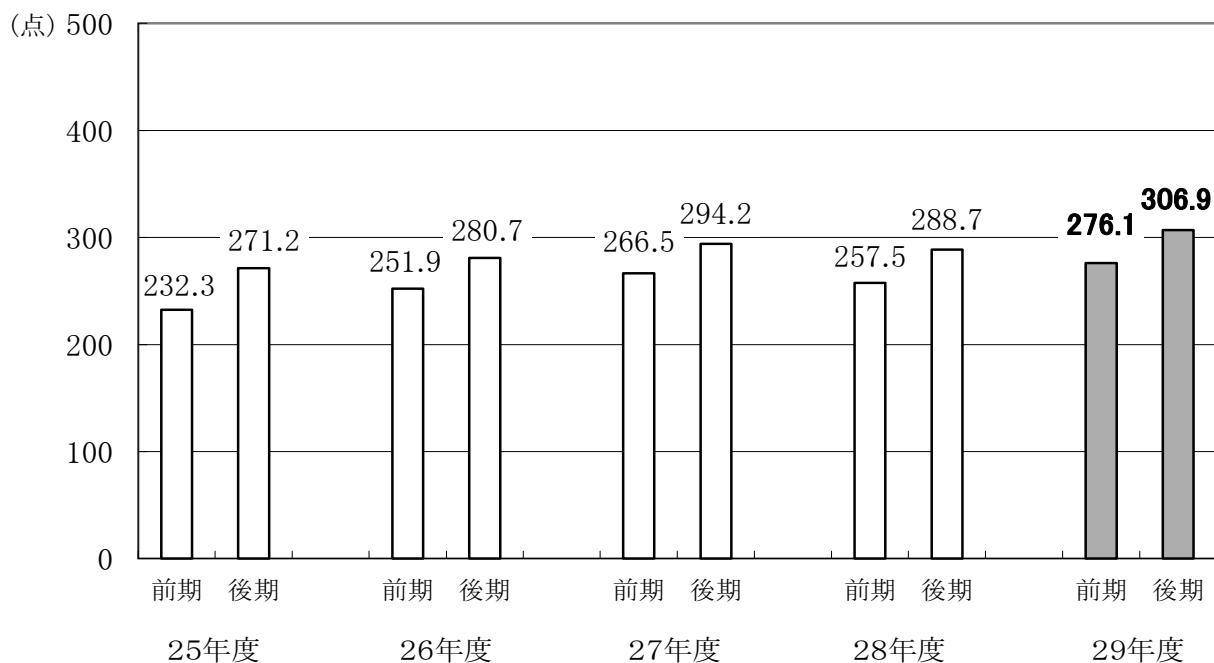
5 結果の概要

【表】各教科及び5教科の平均点

()内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教 科
平成 29 年度	前期	60.8 (16.9)	53.8 (21.2)	51.4 (16.4)	56.4 (20.0)	53.7 (24.4)	276.1 (89.9)
	後期	67.2 (17.9)	61.6 (21.5)	58.8 (18.8)	61.6 (21.9)	57.7 (22.3)	306.9 (91.4)
平成 28 年度	前期	57.0 (16.0)	56.6 (22.1)	47.4 (18.2)	46.3 (19.6)	50.3 (25.1)	257.5 (89.5)
	後期	56.7 (16.4)	62.1 (22.1)	57.9 (15.1)	51.0 (18.7)	60.9 (22.7)	288.7 (83.8)

【図】5教科の平均点の経年変化



前期・後期選抜の各教科及び5教科の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。平成29年度の前期選抜及び後期選抜の5教科の平均点を見ると、前期選抜は前年度よりも18.6点高くなり、後期選抜も前年度より18.2点高くなった。

なお、受検者の得点分布については、前期選抜は14, 15ページ、後期選抜は26, 27ページに示した。

Ⅱ 【前期選抜】教科別の結果

1 国 語（前 期）

（1）出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、3領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにした。
- エ 与えられた材料について、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにした。

（2）正答率の概況

抽出答案数=3,777

領 域（事 項） ・ 内 容		問 題・配 点	正答率の平均（%）
話すこと・聞くこと	放送による聞き取り	一 10点	66.9
書 く こ と	作文	八 12点	12.6
読 む こ と	説明的な文章	五 20点	52.1
	文学的な文章	六 20点	74.4
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	四 (2) 七 14点	59.7
	言葉の特徴やきまり に関する事項	四 (1) (3) (4) 6点	41.8
	漢字に関する 事項	読み 二 8点 書き 三 10点	77.3 63.1

（3）結 果 の 説 明

全体の平均点は60.8点で、前年度と比べて3.8点高くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字に関する事項（読み）」が77.3%と最も高く、次いで読むことの「文学的な文章」が74.4%であった。逆に、書くことの「作文」が12.6%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問七の(1)「歴史的仮名遣い」、大問二「漢字（読み）」の(1)「鍛（える）」及び大問一の(1)「スピーチの組み立て方の工夫」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問五の(4)「文章の内容の理解と表現」、大問七の(5)のⅡ「文章の内容と展開の理解と表現」及び大問八の「資料をふまえての二段落構成の作文」であった。

無答率が高かったのは、大問三「漢字（書き）」の(5)「三寒四温」、大問七の(5)のⅡ「文章の内容と展開の理解と表現」及び大問三「漢字（書き）」の(3)「至難」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容			問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
				選択	短答	記述			
一	(1)	放送による聞き取り	スピーチの組み立て方の工夫	○			89.8	0.1	
	(2)		説得力のある話し方の工夫	○			37.1	0.3	
	(3)		効果的なスピーチの工夫	○			74.2	0.5	
	(4)	①	高校の修学旅行候補地発表会スピーチの練習	事実と意見の違い (①8字以内) (②5字以内)			○	73.0	8.4
								2点	
		1点							
		無答							
②	1点	○		60.6	8.8				
				無答		1.5			
二	(1)	漢字(読み)		鍛(える)[きた]		○		93.5	1.1
	(2)		謹(んで)[つつし]		○		78.8	5.2	
	(3)		顕著[けんちよ]		○		65.9	7.8	
	(4)		化身[けしん]		○		71.1	1.0	
三	(1)	漢字(書き)	縮(める)		○		87.6	4.4	
	(2)		訳		○		70.8	12.2	
	(3)		至難		○		29.7	16.6	
	(4)		宇宙		○		86.6	1.6	
	(5)		三寒四温		○		40.6	30.1	
四	(1)	中学校三年生の「今年度の目標」についての作文	活用の種類の識別	○			40.0	0.5	
	(2)		漢文 返り点		○		73.7	2.6	
	(3)		本来の用法とは違う使われ方をしている語	○			26.0	0.1	
	(4)		四字熟語	○			59.4	0.3	
五	(1)	説明的な文章 『哲学のメガネ 哲学の眼で(世界)を見るための7つの授業』	言葉の意味の理解(4字)		○		76.4	1.5	
	(2)		文章の内容の理解	○			35.7	0.5	
	(3)		I	文章の内容の理解(5字)		○		81.9	4.8
			II	文章の内容の理解(12字)		○		57.6	11.8
	(4)		4点	文章の内容の理解と表現(10字以上, 15字以内)			○	9.7	15.8
			1~3点	17.0					
(5)	無答	文章の内容の理解	○			51.2	1.4		
六	(1)	文学的な文章 『タスキメン』	登場人物の心情の理解	○			84.5	0.6	
	(2)		文章の内容の理解	○			57.8	0.8	
	(3)		C	文章の内容の理解	○			87.9	1.2
			D	文章の内容の理解	○			83.4	1.6
	(4)		I	登場人物の心情の理解	○			86.6	3.1
			II	登場人物の心情の理解と表現(10字以上, 15字以内)			○	40.5	12.5
	(5)		無答	文章の内容と視点の理解	○			80.0	
七	(1)	古典 『雲萍雑誌』	歴史的仮名遣い		○		94.6	2.0	
	(2)		文章の内容の理解	○			77.9	1.9	
	(3)		文章の内容の理解(8字)		○		48.2	12.7	
	(4)		文章の内容の理解(各3字)		○		47.4	11.2	
	(5)		I	文章の内容と展開の理解(4字)		○		64.3	15.4
			II	文章の内容と展開の理解と表現(11字以内)			○	11.6	25.6
(5)	無答				8.9				
八	12点	条件作文 「本を読むことの効果についての認識」	資料をふまえての二段落構成の作文(200字以内) ・前段部分は資料から読み取ったこと ・後段部分は前段の内容をふまえた自分の考え			○	12.6	4.6	
	8~11点						24.1		
	4~7点						25.7		
	1~3点						8.9		
	無答								

2 社 会 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し，学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようになるとともに，現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度をみることができるようにした。
- ウ 統計や地形図，写真などの諸資料を活用して，社会的事象を判断・分析する力，そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,777

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率の平均 (%)	
総 合	総 合 問 題	1	12点	65.6	
地理的分野	日 本 地 理	2	16点	56.4	52.3
	世 界 地 理	3	15点	48.1	
歴史的分野	前 近 代 史	4	16点	47.9	45.3
	近 ・ 現 代 史	5	15点	42.6	
公民的分野	国民生活と経済・社会	6	11点	49.4	60.2
	日本の政治制度	7	9点	81.2	
	国 際 社 会	8	6点	50.3	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は53.8点で，前年度と比べて2.8点低くなった。

分野・内容別の正答率は，公民的分野の「日本の政治制度」が81.2%で最も高く，次いで総合問題が65.6%と高かった。逆に，歴史的分野の「近・現代史」が42.6%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問**1**の**(4)**「日本と外国との交流に関する歴史上のできごと」，大問**7**の**(1)**「日本国憲法に定められている自由権の三つの分類」及び大問**7**の**(2)**「アイヌ民族」であった。逆に，正答率が低かったのは，大問**5**の**(2)**「ロシアとの外交」，大問**4**の**(5)**「島原・天草一揆」及び大問**6**の**(2)**「株主の有限責任」であった。

無答率が高かったのは，大問**6**の**(1)**「ベンチャー企業」，大問**1**の**(3)**「ヒスパニック」及び大問**4**の**(5)**「島原・天草一揆」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)			
			選択	短答	記述					
1	(1)	総合問題	日本，アメリカ合衆国，中国及び韓国の高校生のインターネット利用状況に関する資料の読み取り		○		58.0	0.3		
	(2)		東南アジア諸国連合			○	50.3	11.6		
	(3)		ヒスパニック			○	68.7	18.1		
	(4)		日本と外国との交流に関する歴史上のできごと		○		85.4	0.0		
2	(1)	日本地理	東北地方に属する四つの県の特徴		○		47.6	0.2		
	(2)		①	石川県の県庁所在地		○	○	53.6	3.2	
			②	北陸地方の四つの県の面積，人口，産業に関する資料の読み取り		○		47.0	0.5	
	(3)		①	扇状地の土地利用			○	4点	62.4	11.4
								1～3点	7.4	
								無答		
(2)	地形図の標高の読み取り		○		71.6	0.3				
3	(1)	世界地理	東京から直進し，最後に南アメリカ大陸を通過する方位		○		70.9	0.1		
	(2)		東京から四つの都市までの距離		○		41.2	0.2		
	(3)		冷帯（亜寒帯）に属する都市		○		39.2	0.3		
	(4)		インドの工業化		○		53.5	0.5		
	(5)		アメリカ合衆国，カナダ，ドイツ及びフランスの人口密度，1人あたりGDP及び輸出品に関する資料の読み取り		○		35.7	0.4		
4	(1)	前近代史	弥生時代の日本の様子		○		78.4	0.1		
	(2)		風土記			○	33.8	8.7		
	(3)		平氏政権について		○		69.5	0.1		
	(4)		琉球王国と東アジアなどの国々との貿易		○		44.0	0.3		
	(5)		①	島原・天草一揆			○	4点	14.0	15.1
1～3点		15.0								
無答										
5	(1)	近・現代史	地租改正反対一揆への政府の対応		○		66.3	0.1		
	(2)		ロシアとの外交		○		10.1	0.4		
	(3)		柳条湖事件		○		52.4	0.1		
	(4)		沖縄が日本に復帰したときの内閣		○		24.3	0.1		
	(5)		「ヨーロッパの火薬庫」			○	59.9	8.2		
6	(1)	経済	ベンチャー企業			○	45.9	19.6		
	(2)		株主の有限責任			○	4点	16.3	12.2	
							1～3点	10.1		
							無答			
(3)	X	非正規雇用に関する資料の読み取り		○		73.5	0.3			
	Y	雇用保険		○		62.0	0.2			
7	(1)	政治	日本国憲法に定められている自由権の三つの分類		○		84.1	0.3		
	(2)		アイヌ民族			○	80.7	6.0		
	(3)		情報リテラシーとメディアリテラシー			○	78.9	4.8		
8	(1)	国際	難民			○	67.3	8.4		
	(2)		国際連合に関連することがら		○		33.2	0.5		

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、数学の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 多面的にものを見ることや論理的に考えることの基となる、数学の理解力をみることができるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力をみることができるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,777

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率の平均 (%)	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	1	30点	86.3	58.2
	文 字 式 の 利 用	2 の(3)	5点	45.5	
	式 の 利 用	5	15点	19.2	
図 形	平 面 図 形	2 の(5), 4 の(2)	10点	1.5	45.2
	空 間 図 形	2 の(1)	5点	71.1	
	命 題 の 証 明	4 の(1)	10点	65.6	
関 数	関 数 $y = ax^2$	3	15点	51.7	
資料の活用	資料の散らばりと代表値	2 の(2)	5点	56.9	45.0
	確 率	2 の(4)	5点	33.1	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は51.4点で、前年度と比べて4.0点高くなった。

領域別の正答率は、数と式が58.2%と最も高く、資料の活用が45.0%と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問**1**の(1)「正の数・負の数(乗法)」の正答率が98.8%と最も高く、大問**5**の(3)②「式の活用(数の規則性)」の正答率が4.2%と最も低かった。

図形の領域では、大問**4**の(1)(b)「命題の証明(穴埋め)」の正答率が92.5%と最も高く、大問**4**の(2)「平面図形(三平方の定理の利用)」の正答率が1.0%と最も低かった。

関数の領域では、大問**3**の(1)「関数 $y = ax^2$ (関数の決定)」の正答率が74.2%と最も高く、大問**3**の(3)「線分の比」の正答率が15.1%と最も低かった。

資料の活用の領域では、大問**2**の(2)「資料の散らばりと代表値(中央値)」の正答率が56.9%、大問**2**の(4)「確率」の正答率が33.1%であった。

無答率が高かったのは、大問**4**の(1)(c)「命題の証明(円周角の定理, 三角形の性質)」, 大問**5**の(3)②「式の活用(数の規則性)」及び大問**4**の(2)「平面図形(三平方の定理の利用)」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選 択	短 答	記 述			
1	(1)	正の数・負の数(乗法)		○		98.8	0	
	(2)	正の数・負の数(四則計算：累乗を含む)		○		87.1	0.7	
	(3)	文字式の計算(分配法則)		○		91.8	0.7	
	(4)	文字式の利用(等式の変形)		○		64.6	4.1	
	(5)	平方根(根号を含む式の計算)		○		90.4	2.1	
	(6)	二次方程式(二次方程式の解の公式)		○		84.8	4.2	
2	(1)	空間図形(回転体の形状)	○			71.1	0.1	
	(2)	資料の散らばりと代表値(中央値)		○		56.9	1.1	
	(3)	文字式の利用(一次方程式)		○		45.5	11.3	
	(4)	確率		○		33.1	6.1	
	(5)	平面図形(作図)			○	1.9	36.6	
3	(1)	関数 $y = ax^2$ (関数の決定)		○		74.2	5.4	
	(2)	三角形の面積		○		65.8	12.6	
	(3)	線分の比		○		15.1	28.2	
4	(a)	命題の証明(穴埋め)		○		92.3	0.3	
		命題の証明(穴埋め)		○		92.5	0.5	
	(1)	6点	命題の証明(円周角の定理, 三角形の性質)			12.1	/	
		3点			○	6.0		
		無答						45.2
(2)	平面図形(三平方の定理の利用)			○	1.0	40.2		
5	(1)	式の活用(数の規則性)			○	38.0	4.0	
	(2)	式の活用(数の規則性)			○	26.7	13.5	
	(3)	①	式の活用(数の規則性)			○	8.0	27.9
		②	式の活用(数の規則性)			○	4.2	44.3

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，第1分野，第2分野からバランスよく出題し，学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能並びに科学的な見方や考え方を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 図や表を基に，科学的に判断する力や結果などを表現する力をみることができるようにした。
- エ 課題を多面的，総合的にとらえ，科学的に思考し，解決する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,777

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率の平均 (%)			
第 1 分 野	物 理	エネルギーの変換	1(2)	3点	81.3	47.6
		圧力と力の分解	4	10点	39.1	
		電流による発熱	9	12点	47.8	
	化 学	空気に含まれている気体	1(1)	3点	67.9	58.8
		酸化銅と炭素の反応	3	12点	52.8	
		水溶液の性質	6	10点	62.5	
第 2 分 野	生 物	双子葉類の根	1(4)	3点	93.7	70.9
		植物の体のつくりと働き	5	12点	60.2	
		生物の進化	8	10点	75.9	
	地 学	流星の説明	1(3)	3点	84.3	57.9
		地震	2	12点	67.4	
		星の日周運動	7	10点	41.7	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は56.4点で，前年度と比べて10.1点高くなった。

分野・内容別の正答率は，第2分野・生物の大問8「生物の進化」が75.9%と最も高かった。逆に，第1分野・物理の大問4「圧力と力の分解」が39.1%と最も低かった。なお，大問1は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり，正答率の平均が81.8%であった。

また，次の表にあるように，正答率が高かった問題は，大問6の(3)(a)「中和」，大問8の(3)「相同器官からわかること」及び大問2の(1)「海岸段丘」であった。逆に，正答率が低かった問題は，大問4の(4)「糸がフックを引く力の作図」，大問9の(4)「回路に電流を流したときの水の温度の比較」及び大問3の(3)「『炭素の粉末』と『発生した気体』の質量の関係を表すグラフ」であった。

無答率が高かった問題は，大問3の(3)「『炭素の粉末』と『発生した気体』の質量の関係を表すグラフ」，大問4の(4)「糸がフックを引く力の作図」及び大問3の(1)(b)「酸化銅が炭素で還元されるときの化学反応式」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
		選 択	短 答	記 述				
1	(1)	空気中に最も多い気体の化学式	○			67.9	0	
	(2)	エネルギーの変換	○			81.3	0.0	
	(3)	流星の説明	○			84.3	0.1	
	(4)	双子葉類の根のつくり	○			93.7	0	
2	(1)	海岸段丘	○			83.1	0.0	
	(2)	元禄地震にともなう大地の変動	○			78.1	0.4	
	(3)	①	P波の速さ		○		61.7	12.6
		②	4点	震度の説明		○	46.8	
1～3点			14.7					
無答			2.5					
3	(1)	(a)	還元		○		73.8	3.4
		(b)	酸化銅が炭素で還元されるときの化学反応式			○	41.1	13.8
	(2)	発生した気体の性質	○			78.2	0.4	
	(3)	4点	「炭素の粉末」と「発生した気体」の質量の関係を表すグラフ			○	18.2	
1～3点		5.6						
無答								30.4
4	(1)	スポンジにはたらく圧力の大きさ		○		42.5	8.9	
	(2)	物体の置き方を変えたときの圧力の比較	○			62.5	1.2	
	(3)	2つの物体を重ねたときの圧力の比較	○			44.9	2.1	
	(4)	4点	糸がフックを引く力の作図			○	6.3	
1～3点		3.3						
無答								15.8
5	(1)	蒸散		○		82.1	1.9	
	(2)	ホウセンカの茎の維管束の並び方	○			49.6	2.3	
	(3)	4点	メスシリンダー内の水の減少量が異なる理由			○	52.6	
		1～3点					8.1	
無答								6.1
(4)	課題を解決するための実験の計画	○			56.3	0.3		
6	(1)	電解質	○			71.3	0.1	
	(2)	水素イオンとその性質	○			70.8	0.5	
	(3)	(a)	中和		○		84.4	6.8
		(b)	水溶液のpHとイオン	○			23.6	0.3
7	(1)	北海道でのオリオン座の日周運動	○			34.8	0.5	
	(2)	①	黄道		○		74.8	4.5
		②	天球上での太陽の移動	○			24.6	0.6
		③	夏にオリオン座が見える時刻と方向	○			32.6	2.1
8	(1)	「種の起源」の著者の名前	○			71.5	0.3	
	(2)	相同器官		○		76.0	6.8	
	(3)	相同器官からわかること	○			84.0	0.7	
	(4)	シソチョウの特徴	○			72.1	1.2	
9	(1)	電熱線の発熱量の計算		○		44.1	12.3	
	(2)	実験装置の工夫と結果からわかること	○			72.0	2.5	
	(3)	並列回路, 直列回路を流れる電流の大きさの関係	○			60.2	3.1	
	(4)	回路に電流を流したときの水の温度の比較	○			14.8	8.3	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

5 英 語 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識及び技能を、全領域にわたり身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などをみることができるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力をみることができるようにした。
- ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力をみることができるようにした。
- エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,777

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率の平均 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (対話を聞いて答える)	1 6点	78.0	61.6
	リスニングテスト (絵を見て答える)	2 6点	55.9	
	リスニングテスト (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3 9点	50.1	
	リスニングテスト (ヒントとなる英文を聞いて英単語を答える)	4 12点	65.0	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 20点	56.7	57.3
	長い文章の読解	8 12点	46.6	
	対話文の流れの理解	9 12点	69.1	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5 15点	39.8	34.3
	英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)	6 8点	6.6	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は53.7点で、前年度と比べて3.4点高くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと(話すこと)の「リスニングテスト(対話を聞いて答える)」が78.0%と最も高かった。逆に、書くこと(話すこと)の「英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)」が6.6%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問1のNo.1「対話の最後の発話に対する応答を選ぶ」、大問7の(2)②「内容と合う日本語を選ぶ」及び大問7の(1)⑧「文脈に合わせて英語を選ぶ」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問6「英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)」、大問5の(2)「動詞 speak を名詞形 speech にする」及び大問8の(2)「内容と合うよう英語を補充する」であった。

無答率が高かったのは、大問7の(2)①「文脈に合う英語の質問文を答える」、大問8の(2)「内容と合うよう英語を補充する」及び大問4の(3)「英語のヒントを聞いて restaurant のつづりを完成する」であった。

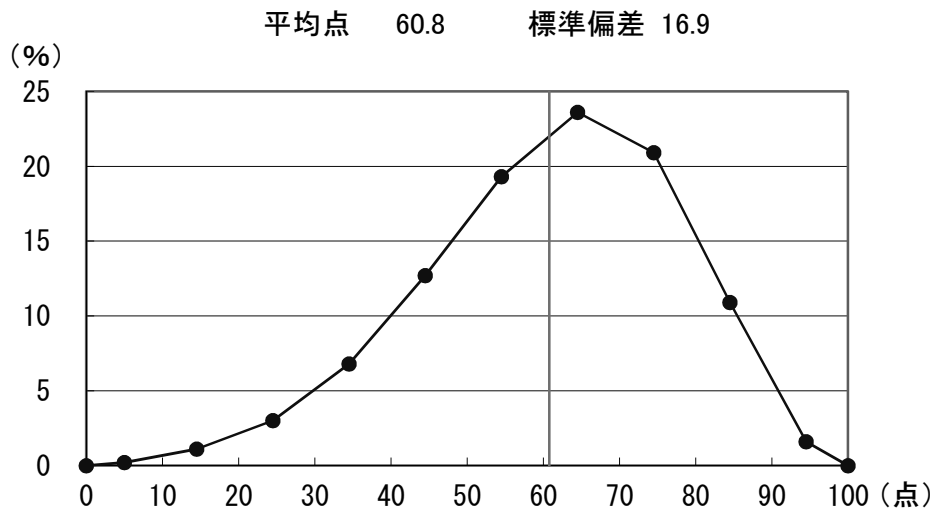
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)			
		選択	短答	記述					
1	No. 1			○	94.3	0			
	No. 2			○	61.7	0.0			
2	No. 1	リスニング			○	48.9	0		
	No. 2				○	62.9	0.0		
3	No. 1				○	57.5	0.0		
	No. 2				○	46.7	0		
	No. 3				○	46.0	0.1		
4	(1)					○	73.9	5.7	
	(2)				○	64.1	13.4		
	(3)				○	58.0	16.6		
	(4)				○	63.8	11.2		
5	(1)	文法・文構造				○	37.4	1.9	
	(2)					○	10.7	1.7	
	(3)					○	46.0	0.4	
	(4)					○	49.5	0.8	
	(5)					○	55.5	0.8	
6	8点	自己表現					6.6		
	5～7点						21.9		
	1～4点					○	29.5		
	無答							13.7	
7	(1)	短文読解				○	74.2	0.1	
						○	77.8	0.1	
	(2)		5点					22.1	
			3～4点					13.8	
			1～2点				○	3.3	
			無答						24.8
	(3)					○	82.0	0.1	
(3)	①				○	63.3	1.4		
	②					20.6	7.6		
8	(1)	長文読解				○	69.5	0.8	
	(2)					○	11.3	22.7	
	(3)					○	63.4	1.3	
	(4)					○	42.0	2.0	
9	(1)	対話文読解				○	68.1	0.4	
	(2)					○	65.9	0.6	
	(3)					○	66.9	1.1	
	(4)					○	75.3	1.2	

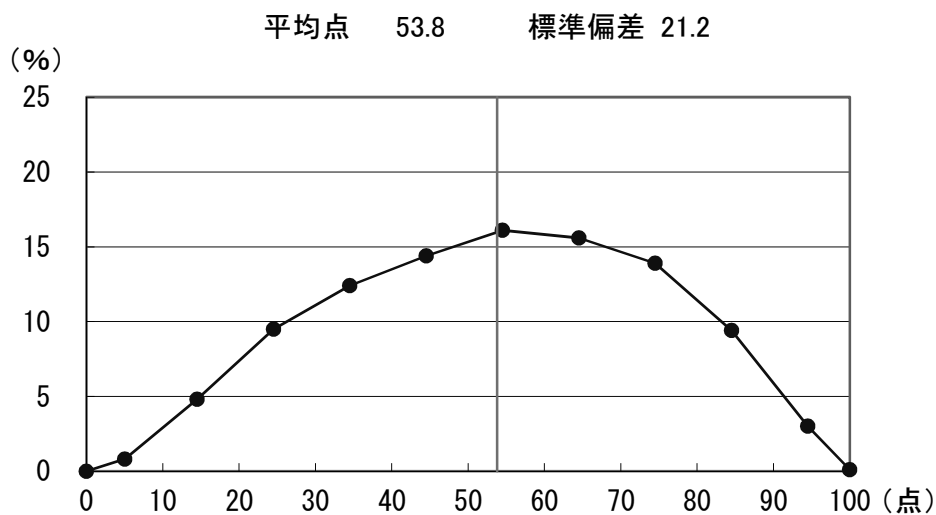
※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

Ⅲ 【前期選抜】受検者の得点分布

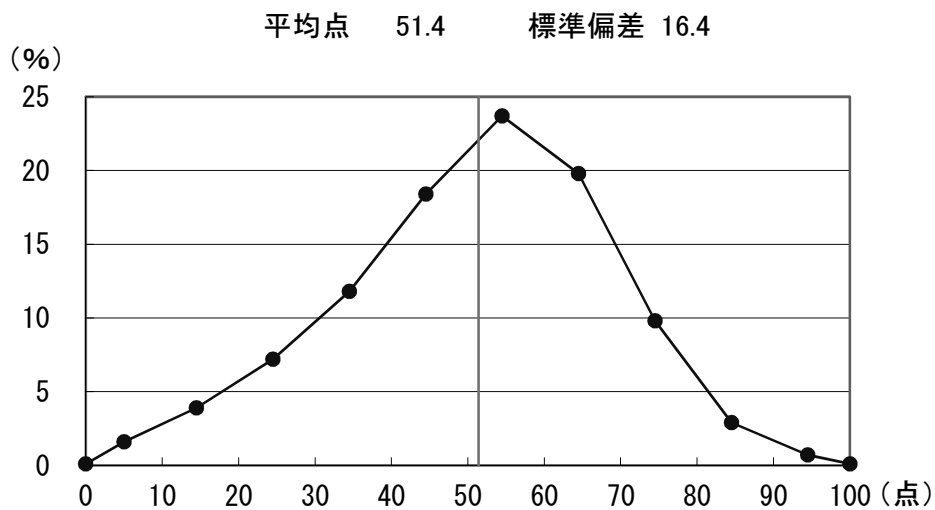
1 国語



2 社会

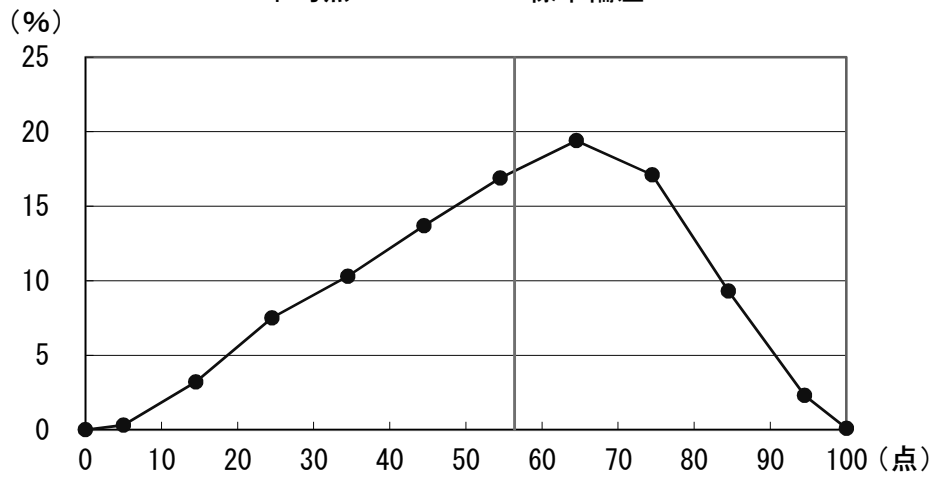


3 数学



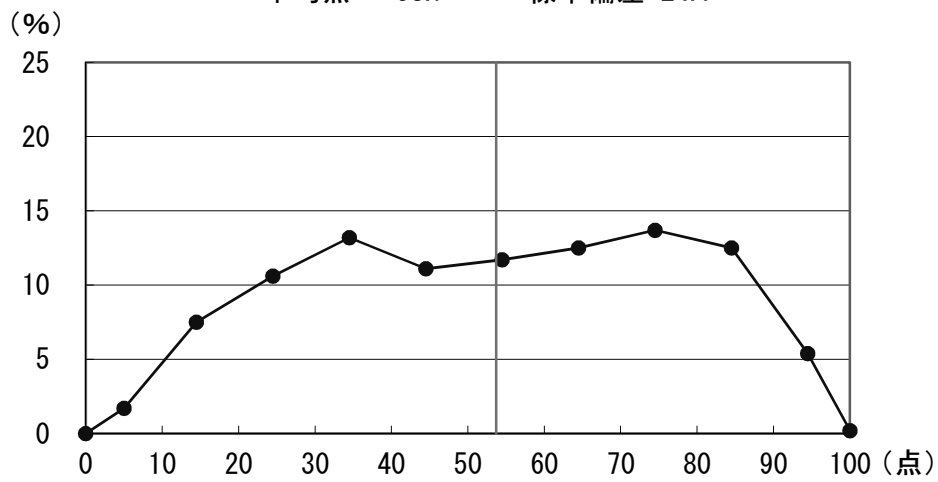
4 理科

平均点 56.4 標準偏差 20.0



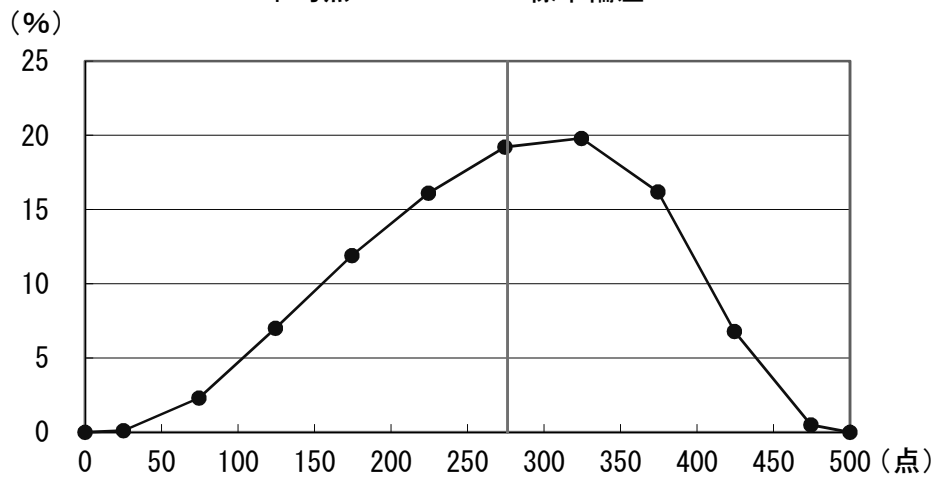
5 英語

平均点 53.7 標準偏差 24.4



6 5教科得点合計

平均点 276.1 標準偏差 89.9



Ⅳ 【後期選抜】教科別の結果

1 国 語（後 期）

（1）出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、3領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにした。
- エ 与えられた材料について、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにした。

（2）正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,603

領 域（事 項） ・ 内 容		問 題・配 点	正答率の平均（%）
話すこと・聞くこと	放送による聞き取り	一 12点	83.1
書 く こ と	作文	七 10点	27.3
読 む こ と	説明的な文章	五 (1) (2) (4) (5) 20点	49.8
	文学的な文章	四 (2) (4) (5) (6) 17点	66.0
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	六 13点	66.2
	言葉の特徴やきまり に関する事項	四 (1) (3) 五 (3) 10点	68.1
	漢字に関する 事項	読み 二 8点 書き 三 10点	82.6 68.2

（3）結 果 の 説 明

全体の平均点は67.2点で、前年度と比べて10.5点高くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は、話すこと・聞くことの「放送による聞き取り」が83.1%と最も高く、次いで伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字に関する事項（読み）」が82.6%であった。逆に、書くことの「作文」が27.3%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問三「漢字（書き）」の(2)「囲（まれた）」、大問二「漢字（読み）」の(3)「待遇」及び大問一「放送による聞き取り」の(2)「意見の比較の理解」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問四の(5)のII「文章の内容の理解と表現」、大問三「漢字（書き）」の(5)「無病息災」及び大問五の(2)の①②「文章の内容の理解と表現」であった。

無答率が高かったのは、大問五の(2)の③「文章の内容の理解」、大問五の(5)「文章の内容の理解と表現」及び大問六の(3)「文章の内容の理解」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容			問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
				選 択	短 答	記 述			
一	(1)	放送による 聞き取り 中学生への学校紹介 パンフレット	説明の仕方と内容の理解	○			86.0	0.1	
	(2)		意見の比較の理解	○			92.4	0.1	
	(3)		話し合いの展開と内容の理解		○		71.0	0.1	
二	(1)	漢字 (読み)	凝(らした)[こ]		○		88.1	1.6	
	(2)		臨(む)[のぞ]		○		72.0	0.3	
	(3)		待遇[たいぐう]		○		94.8	1.5	
	(4)		摩天楼[まてんろう]		○		75.4	2.5	
三	(1)	漢字 (書き)	逆(上がり)		○		72.4	1.7	
	(2)		困(まれた)		○		95.7	1.2	
	(3)		包装		○		61.6	8.9	
	(4)		強化		○		87.9	2.5	
	(5)		無病息災		○		23.5	18.3	
四	(1)	文学的な文章 『金メダルのケーキ』	品詞の識別(副詞/形容詞)	○			58.3	0.5	
	(2)		登場人物の心情の理解	○			76.5	0	
	(3)		文章の内容と慣用句の理解	○			76.4	0.1	
	(4)		登場人物の心情の理解	○			65.5	0.6	
	(5)		I	文章の内容の理解	○			91.5	0.5
			II	文章の内容の理解と表現(5字)			○	17.7	10.4
	(6)		登場人物の心情の理解	○			78.9	0.1	
五	(1)	説明的な文章 『発信力の育てかた ジャーナリストが教える 「伝える」レッスン』	文章の内容の理解	○			77.6	0.1	
	(2)		①	6点				27.2	
				4~5点				18.5	
				3点			○	22.0	
				1~2点				7.8	
				無答					11.8
	③		文章の内容の理解		○		52.7	23.5	
	(3)		比喩表現(暗喩)	○			69.5	0.7	
	(4)		文章の内容と構成の理解	○			75.0	1.1	
	(5)		4点					44.4	
1~3点		文章の内容の理解と表現 (10字以上, 15字以内)			○	11.9			
無答							21.5		
六	(1)	古典 『落栗物語』	歴史的仮名遣い		○		74.7	1.1	
	(2)		文章の内容の理解	○			75.5	2.2	
	(3)		文章の内容の理解		○		56.1	19.3	
	(4)		文章の内容の理解	○			74.2	2.5	
	(5)		文章の内容の理解	○			50.3	3.4	
七	10点	条件作文 ことわざを用いた 自分の考え	条件をふまえてことわざを用いた一段落構成の 作文(140字以内)			○	27.3		
	6~9点		・「虎穴に入らずんば虎子を得ず」「君子は危う きに近寄らず」のいずれかを用い, 与えられた 状況下での自分の考えを書く。				35.4		
	1~5点						11.1		
	無答							7.9	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

2 社 会 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し，学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようになるとともに，現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度をみることができるようにした。
- ウ 統計や地形図，写真などの諸資料を活用して，社会的事象を判断・分析する力，そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,603

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率の平均 (%)	
総 合	総 合 問 題	1	10点	71.8	
地理的分野	日 本 地 理	2	16点	76.8	76.7
	世 界 地 理	3	15点	76.6	
歴史的分野	前 近 代 史	4	19点	52.4	49.3
	近 ・ 現 代 史	5	16点	45.4	
公民的分野	日 本 の 政 治 制 度	6	12点	52.4	55.8
	国民生活と経済・社会	7	12点	59.1	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は61.6点で，前年度と比べて0.5点低くなった。

分野・内容別の正答率は，地理的分野の「日本地理」が76.8%で最も高く，次いで地理的分野の「世界地理」が76.6%と高かった。逆に，歴史的分野の「近・現代史」が45.4%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問**2**の(2)「択捉島」，大問**3**の(4)「イギリス，フランス，ロシア及びブラジルの発電と二酸化炭素排出量に関する資料の読み取り」及び大問**2**の(4)「地形図の方位や距離等の読み取り」であった。逆に，正答率が低かったのは，大問**6**の(2)「参議院の緊急集会」，大問**4**の(5)「江戸時代後期の幕府の対外政策に関連することから」及び大問**7**の(3)「四大公害裁判」であった。

無答率が高かったのは，大問**5**の(1)「征韓論」，大問**6**の(2)「参議院の緊急集会」及び大問**6**の(3)「国庫支出金」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	(1)	総合問題	資料より，びわの収穫量上位4県の特定		○	57.6	0.1		
	(2)		1751年ごろに起こったできごと		○	85.9	0.1		
	(3)		消費者契約法			○	71.8	7.5	
2	(1)	日本地理	滋賀県の県庁所在地			○	59.5	7.2	
	(2)		択捉島		○		91.8	0	
	(3)		三つの県に共通する昼間人口と夜間人口に関する資料の読み取り		○		68.2	0	
	(4)		地形図の方位や距離等の読み取り		○		87.6	0.1	
3	(1)	世界地理	北緯15度の緯線		○		49.8	0	
	(2)		地中海式農業			○	83.9	9.7	
	(3)		「ウルル（エアーズロック）」		○		84.5	0.3	
	(4)		イギリス，フランス，ロシア及びブラジルの発電と二酸化炭素排出量に関する資料の読み取り		○		88.0	0.2	
4	(1)	前近代史	須恵器		○		46.7	0	
	(2)		御成敗式目が制定されたころに起こったできごと		○		56.4	0.1	
	(3)		銀閣		○		66.3	0	
	(4)		譜代大名			○	69.4	10.7	
	(5)		江戸時代後期の幕府の対外政策に関連することから		○		23.3	0.2	
5	(1)	近・現代史	征韓論			○	47.3	15.5	
	(2)		工場法		○		43.2	0	
	(3)		1914年と1939年との間に起こった世界のできごと		○		44.8	0.1	
	(4)		4点	農地改革				46.2	/
	1~3点					10.7			
	無答					/	7.4		
6	(1)	政治	日本の三権分立のしくみ		○		81.5	0.1	
	(2)		4点	参議院の緊急集会				10.8	/
			1~3点					7.5	
			無答					/	
(3)	国庫支出金			○	64.9	12.4			
7	(1)	経済	景気変動（景気循環）とインフレーション		○		70.5	0.2	
	(2)		私企業と公企業			○	67.6	11.0	
	(3)		四大公害裁判		○		39.3	0.2	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、数学の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 多面的にものを見ることや論理的に考えることの基となる、数学の理解力をみることができるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力をみることができるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,603

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正 答 率 の 平 均 (%)	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	1 の(1)(2)(3)(4)(6)	25点	92.1	
図 形	平 面 図 形	1 の(5), 2 の(5), 4 の(2) 5 の(2)(3)	28点	30.3	44.1
	空 間 図 形	2 の(2)	6点	58.8	
	命 題 の 証 明	4 の(1)	10点	67.0	
関 数	関 数 $y = ax^2$	2 の(3), 3 の(1)	9点	79.0	57.0
	直 線 の 式	3 の(2)	3点	70.7	
	点 の 座 標	3 の(3), 5 の(1)	7点	28.2	
資料の活用	資料の散らばりと代表値	2 の(1)	6点	80.4	76.1
	確 率	2 の(4)	6点	71.8	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は58.8点で、前年度と比べて0.9点高くなった。

領域別の正答率は、数と式が92.1%と最も高く、図形が44.1%と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問1の(1)「正の数・負の数(加法)」の正答率が98.3%と最も高く、(3)「文字式の計算」の正答率が84.8%と最も低かった。

図形の領域では、大問4の(1)(b)「命題の証明(穴埋め)」の正答率が94.0%と最も高く、大問5の(3)「平面図形(面積)」の正答率が2.2%と最も低かった。

関数の領域では、大問3の(1)「関数 $y = ax^2$ (点の座標)」の正答率が87.5%と最も高く、大問3の(3)「 x 軸上の点の座標」の正答率が14.4%と最も低かった。

資料の活用の領域では、大問2の(1)「資料の散らばりと代表値(平均値と最頻値)」の正答率が80.4%、大問2の(4)「確率」の正答率が71.8%であった。

無答率が高かったのは、大問5の(3)「平面図形(面積)」、大問4の(1)(c)「命題の証明(三角形の相似)」及び大問4の(2)「平面図形(相似の応用)」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
		選択	短答	記述				
1	(1)	正の数・負の数(加法)		○		98.3	0	
	(2)	正の数・負の数(四則計算：累乗を含む)		○		96.4	0.5	
	(3)	文字式の計算		○		84.8	1.0	
	(4)	平方根(根号を含む式の計算)		○		92.8	1.1	
	(5)	多角形の内角の和		○		85.2	1.8	
	(6)	因数分解		○		88.3	1.3	
2	(1)	資料の散らばりと代表値(平均値と最頻値)	○			80.4	0.4	
	(2)	空間図形(円錐の体積)		○		58.8	2.5	
	(3)	関数(変域)		○		70.4	3.1	
	(4)	確率		○		71.8	3.9	
	(5)	平面図形(作図)			○	8.2	38.9	
3	(1)	関数 $y = ax^2$ (点の座標)		○		87.5	2.9	
	(2)	2点を通る直線の式		○		70.7	9.4	
	(3)	x 軸上の点の座標		○		14.4	37.9	
4	(a)	(a)	命題の証明(穴埋め)	○		87.1	0.2	
		(b)	命題の証明(穴埋め)	○		94.0	0.2	
	(1)	6点	命題の証明(三角形の相似)				19.9	
		3点			○		6.9	
		無答						44.4
(2)	平面図形(相似の応用)		○		5.7	44.4		
5	(1)	点の回転移動(点の座標)		○		42.0	18.5	
	(2)	OA	線分の長さ		○	73.4	14.0	
		OC	線分の長さ		○	6.8	36.6	
	(3)	平面図形(面積)		○		2.2	57.5	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，第1分野，第2分野からバランスよく出題し，学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能並びに科学的な見方や考え方を身に付けているかを見ることができるようにした。
- ウ 図や表を基に，科学的に判断する力や結果などを表現する力を見ることができるようにした。
- エ 課題を多面的，総合的にとらえ，科学的に思考し，解決する力を見ることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,603

分 野 ・ 内 容			問 題 ・ 配 点	正答率の平均 (%)		
第1分野	物 理	音の性質	2	12点	51.6	51.6
		仕事と力学的エネルギー	7	13点	51.7	
	化 学	密度と状態変化	4	13点	75.0	68.4
		水溶液の電気分解	6	12点	61.8	
第2分野	生 物	細胞分裂と根の成長	1	13点	65.7	64.3
		ヒトの血液の循環	5	12点	62.8	
	地 学	気象とその変化	3	13点	54.2	61.0
		化石とその環境	8	12点	67.9	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は61.6点で，前年度と比べて10.6点高くなった。

分野・内容別の正答率は，第1分野・化学の大問4「密度と状態変化」が75.0%と最も高かった。逆に，第1分野・物理の大問2「音の性質」が51.6%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かった問題は，大問1の(3)「染色体」，大問4の(4)「粒子と状態変化」及び大問5の(3)「不要な物質を排出するしくみ」であった。逆に，正答率が低かった問題は，大問5の(1)②「体循環の経路」，大問7の(3)「小球が水平面を運動しているときの平均の速さ」及び大問7の(2)「小球を斜面にそって30cmの高さまで引き上げるときの仕事率」であった。

無答率が高かったのは，大問7の(3)「小球が水平面を運動しているときの平均の速さ」，大問6の(3)①「5.0%の塩化銅水溶液80gを作るのに必要な水の質量」及び大問7の(2)「小球を斜面にそって30cmの高さまで引き上げるときの仕事率」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
		選択	短答	記述				
1	(1)	試料をうすい塩酸につける理由	○			72.4	0	
	(2)	対物レンズを高倍率にしたときの現象とその対応	○			64.9	0	
	(3)	染色体		○		91.0	2.1	
	(4)	4点	根の成長のしくみ				34.6	
		1～3点			○		29.6	
無答							5.2	
2	(1)	振幅	○			37.6	0.3	
	(2)	4点	太い弦を弱くはじいたときの音の説明			45.9		
		1～3点			○		28.2	
		無答						1.7
	(3)	細い弦を短くして強くはじいたときの音の波形	○			76.2	0.4	
(4)	X群とY群	実験の計画における条件の設定	○			33.6	0.1	
	Z群	弦をはじく強さと音の関係	○			64.8	0.1	
3	(1)	それぞれの日の天気図	○			40.6	0.1	
	(2)	4点	記号が表す風向, 風力, 天気			69.4		
		1～3点			○		14.0	
		無答						1.1
	(3)	季節風の変質	○			59.8	0.2	
(4)	海風がふく理由	○			46.8	0.3		
4	(1)	鉄, 亜鉛, アルミニウムに共通した性質	○			80.0	0.1	
	(2)	金属Aの体積とその種類		○		63.8	6.2	
	(3)	状態変化にともなう体積と密度の変化	○			68.0	0.3	
	(4)	粒子と状態変化	○			88.3	0.2	
5	(1)	①	体循環		○		68.1	4.1
		②	体循環の経路	○			24.6	1.1
	(2)	動脈の特徴	○			71.1	0.4	
	(3)	不要な物質を排出するしくみ	○			87.5	0.2	
6	(1)	陰極から発生した気体の化学式			○	62.7	4.2	
	(2)	塩素の性質	○			68.4	0.1	
	(3)	①	5.0%の塩化銅水溶液80gを作るのに必要な水の質量		○		46.6	10.2
		②	電極で起こる変化	○			69.6	0.6
7	(1)	仕事の原理	○			70.5	0.7	
	(2)	小球を斜面にそって30cmの高さまで引き上げるときの仕事率		○		33.3	8.0	
	(3)	小球が水平面を運動しているときの平均の速さ		○		25.9	15.2	
	(4)	力学的エネルギーの保存	○			77.0	1.1	
8	(1)	①	サンゴが生息する海的环境			○	66.3	5.2
		②	示相化石		○		78.3	4.5
	(2)	新生代の生物	○			60.8	1.1	
	(3)	示準化石となる生物の特徴	○			66.3	1.8	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

5 英 語 (後 期)

(1) 出 題 方 針

ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識及び技能を、全領域にわたり身に付けているかをみることができるようにした。

イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などをみることができるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力をみることができるようにした。

ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力をみることができるようにした。

エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,603

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率の平均 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (絵を見て答える, 対話やまとまりのある文章を聞いて答える, あてはまる単語を答える)	1 28点	58.5	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	4 16点	54.2	60.1
	長い文章の読解	5 20点	51.2	
	対話文の流れの理解	6 16点	77.2	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	2 12点	54.8	44.6
	英語による自己表現	3 8点	14.0	

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は57.7点で、前年度と比べて3.2点低くなった。

領域・内容別の正答率は、読むこと（話すこと）の「対話文の流れの理解」が77.2%と最も高かった。逆に、書くこと（話すこと）の「英語による自己表現」が14.0%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問6の(3)「文脈に合わせて英語を選ぶ」、大問1のNo.1「対話を聞いて絵を選ぶ」及び大問6の(1)「文脈に合わせて英語を選ぶ」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問5の(4)②「内容と合うよう英語を補充する」、大問3「英語による自己表現（ある意見に対する賛否とその理由を記述する）」及び大問2の(3)「語順整序」であった。

無答率が高かったのは、大問5の(4)②「内容と合うよう英語を補充する」、大問3「英語による自己表現（ある意見に対する賛否とその理由を記述する）」及び大問5の(4)①「内容と合うよう英語を補充する」であった。

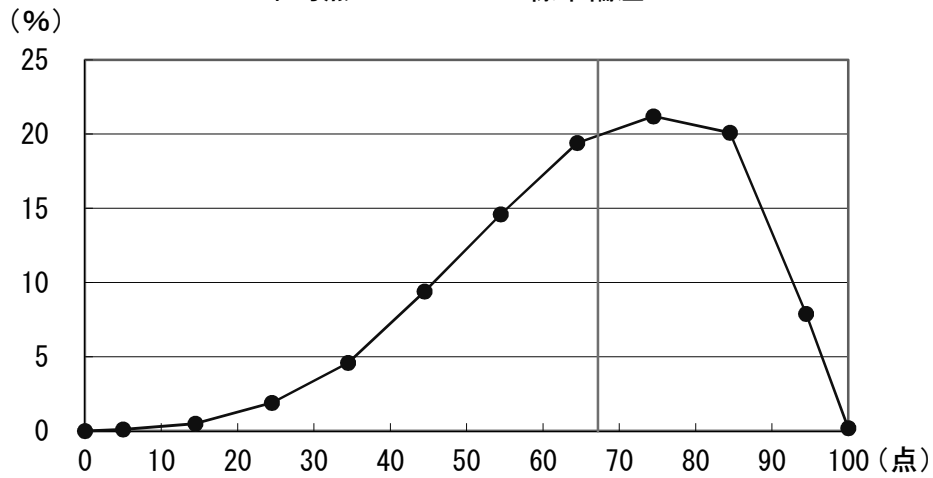
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	No. 1	リスニング	対話を聞いて絵を選ぶ		○		87.5	0.1	
	No. 2		対話を聞いて絵を選ぶ		○		31.7	0.1	
	No. 3		対話を聞いて英語を選ぶ		○		37.0	0.1	
	No. 4		文章を聞いて英語を選ぶ		○		54.3	0.2	
	No. 5		対話を聞いて英語を選ぶ		○		71.4	0.1	
	No. 6		対話を聞いて空所にあてはまる語を答える(second)			○	81.7	2.4	
	No. 7		対話を聞いて空所にあてはまる語を答える(won)			○	45.8	2.4	
2	(1)	文法・文構造	語順整序 (Do you know what we must do now?)		○		58.1	0.1	
	(2)		語順整序 (I like his new song very much because it makes me happy.)		○		81.7	0.1	
	(3)		語順整序 (Mom, can you show me the pictures after looking at them?)		○		24.6	0.2	
3	8点	自己表現	英語による自己表現(ある意見に対する賛否とその理由を記述する) (解答例) Ⓐ (I think so, too.) Ⓑ (I am usually tired at night. I can study better after I sleep very well.)			○	14.0		
	5~7点						23.8		
	1~4点						24.8		
	無答							10.5	
4	(1)	短文読解	内容と合うよう英語を補充する			○	33.0	5.7	
			内容と合う英語を選ぶ		○		68.2	0.2	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		68.1	0.1	
			文脈に合わせて英語を選ぶ		○		47.3	0.3	
5	(1)	長文読解	内容と合うよう英文を挿入する場所を選ぶ		○		69.7	0.5	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		74.4	0.4	
	(3)		内容と合うよう英語を補充する			○	58.8	6.2	
	(4)		①	内容と合うよう英語を補充する			○	47.4	9.4
			4点	内容と合うよう英語を補充する			○	5.5	
			3点					5.1	
			1~2点					24.9	
無答		25.1							
6	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○		83.0	0.2	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		73.9	0.5	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		87.8	0.5	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○		64.2	0.9	

V 【後期選抜】受検者の得点分布

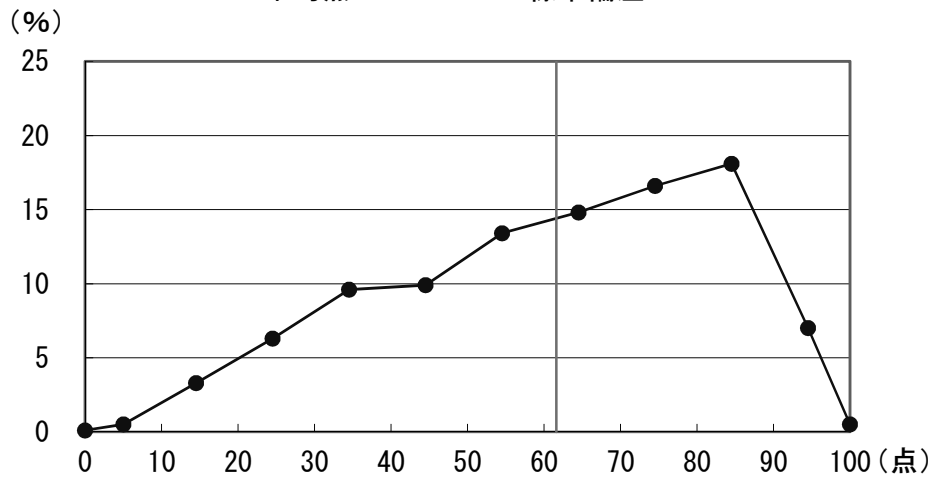
1 国語

平均点 67.2 標準偏差 17.9



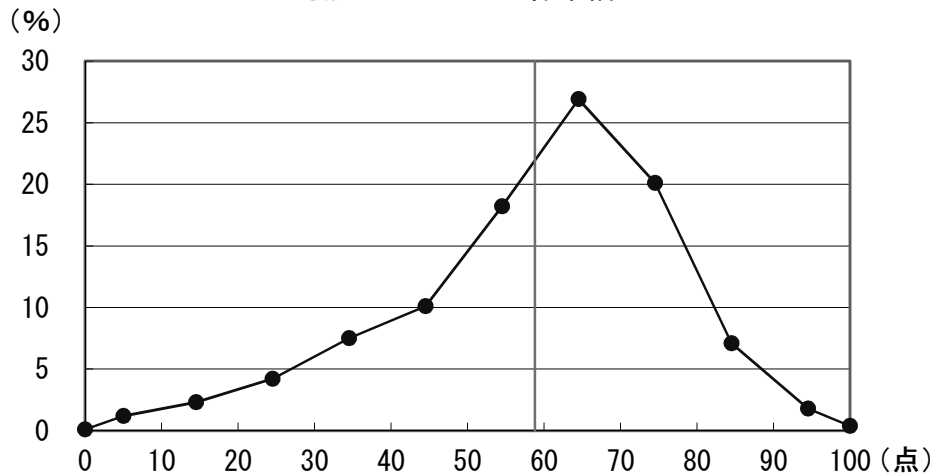
2 社会

平均点 61.6 標準偏差 21.5



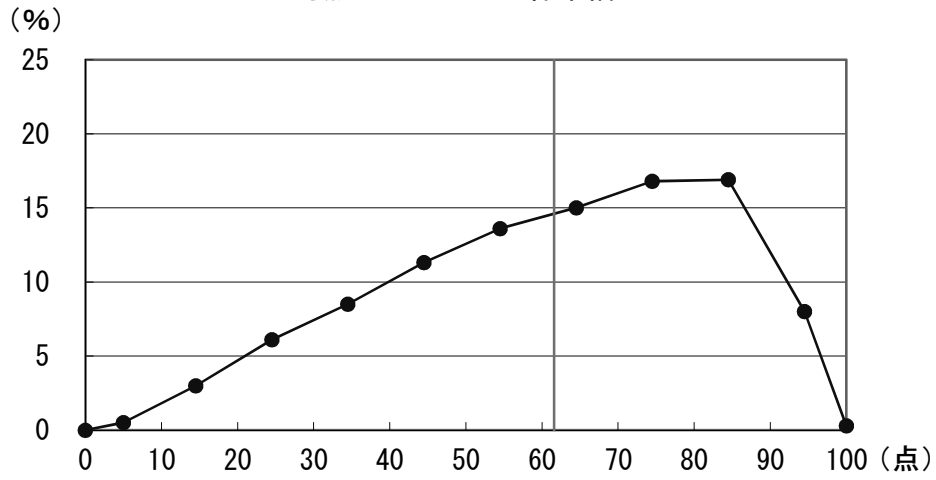
3 数学

平均点 58.8 標準偏差 18.8



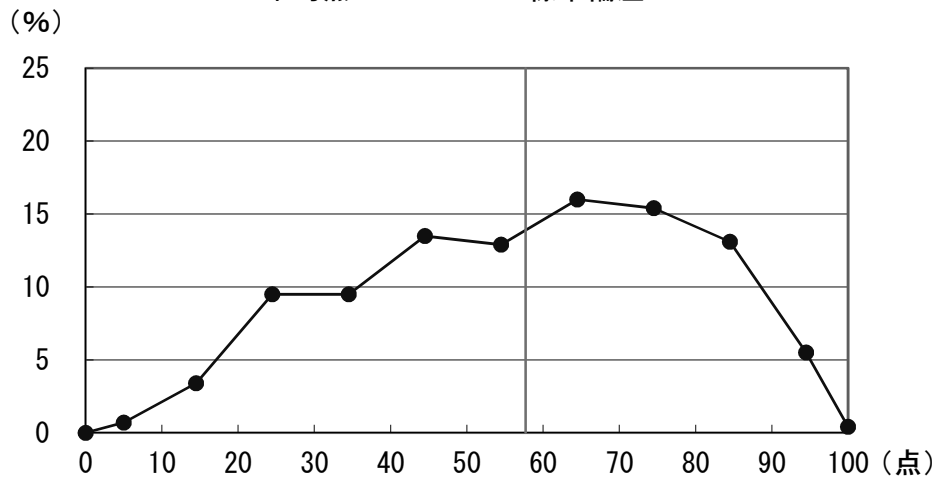
4 理科

平均点 61.6 標準偏差 21.9



5 英語

平均点 57.7 標準偏差 22.3



6 5教科得点合計

平均点 306.9 標準偏差 91.4

